

Sent: Monday, March 19, 2012

To: MAC

Subject: 合格体験記

MAC を受講している間も、MAC 生であることを誇りに思ってたし、なにより、「勉強って楽しい」という、長い間忘れていた感覚（おそらく、7、8年ぶりの感覚）を先生方に呼び起こしていただいた。これは本当に感謝してもきれないくらいだし、国試浪人しても、こんな幸せがあるんだったら、浪人も悪くないなと、私は1学期のころからすでに思っていた。

MAC には崇高さがあると思う。国家試験を最終目標にしない指導があった。「この1年間は、自分の将来の臨床医としての素養に生かさないといけない」と、そんな姿勢が MAC の講師陣からひしひし感じた。私はその点が心底共感できた。たしかに、国家試験は非常に大事な試験ではあるが、1年中、「これが国試にでる、あれはヤマだ」といった講義だけに終始するのでは、自分は満足できないと思った。そんな中で、MAC の講師陣は、みなさんがバラエティに富んでいるので、多角的な視点、アプローチを得ることが出来たと思う。そして、どの先生も、本物の、中身の濃い授業を展開してくださった。

1週間に1つの頻度で確認テストがあるが、1学期はとくに、100問が90分ではなかなか苦しい。逆を返せば、テストまでに、相当準備をしてテストに臨まなければならないということである。テスト勉強に力を注ぐか、テスト後の復習に力を注ぐかは人それぞれかもしれないが、いずれにせよ、確認テストが非常に中身が濃かったし、国試よりもハードなセットだった。MAC は、「実力をつけるためにどうするか」の最短ルートを提供してくれていると思う。だから、テキストは充実していたし、確認テストも、平均点や自分の順位が毎回分かるようになっていて、自分を叱咤激励するのに有効だった。iSchool は、残念ながら先生の指名はなかったけれども、教室の中に自分もいるつもりで、頭を働かせるように、頑張ったつもりである。

1学期のメジャー11科目が大変だったので、2学期のメジャー11科目はどれだけ高レベルなのだろうと思ったが、テキストの内容はコンパクトにそぎ落とされていて、9月初旬はすこし残念に思ったところもあった。しかし、2学期は、使いこなせるかに重点が置かれており、深く理解し知識を得た1学期を「INPUT の時期」とするなら、2学期は「OUTPUT の時期」になると思う。知ってることと使えることは別であり、国試本番の机の上で、いかに正しく考えるかを鍛えられたと思う。

自分が iSchool を受けてきた反省としては、「確認テストを、固定曜日の固定時間にすべき」だったと思う。「だいたい7日を目安」などとしているうちに、じわじわ分量が後ろにたまっていき、1月のころはなかなかてこまいになっていた。動画も、90分みるまで席を立たないなど、リズムを作る工夫があれば、もう少したくさん勉強できたかなと思う。

それ以外の点については申し分なかったし、途中では、自分が国試受験生であることを忘れるほど、楽しく勉強し実力をつけさせていただけたかなと思う。

MAC の皆さまに感謝したいと思う。

東京校 氏名

M. H

出身大学 日本医科大学

昨年、国家試験に落ちてとてもショックだったのですが、一年間を有意義にすごそうと考え、予備校の本科には通わずに、ネットで講座をとって勉強することに最初から決めました。MACのネット講座をとった理由は、基本的な事から応用、そして研修医になっても使える知識を得ることができると判断したからです。一年間の自分の勉強法を人にですが、自分はかぶり朝型なので朝、5時か6時に起きて、1コマビデオを見て、あとはずっと野球したり、友達と遊んだりしてました。時間たしからぬのが嫌な人、自分のペースで勉強したい人には是非ネット講座がおすすめです。一年間いろいろ大変かとは思いますが、毎日自分で決めた量の勉強をしっかりとこなせば絶対来年は合格します。リラックスしてがんばってください!!